

平成21年 5月 1日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320013

研究課題名（和文） 科挙に関する文献学的総合研究

研究課題名（英文） Philological general research on keju-examination system in old-time China

研究代表者 佐藤 鍊太郎（SATO RENTARO）

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号 40196291

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：中国哲学、科挙、経学

## 1. 研究計画の概要

本研究は、科挙制度が成立し、随時その制度に対して変更が加えられることにより、中国の文化がどのような影響を受けたのか、多方面から解明することを目的とする。

先行研究を整理して問題点を整理すると同時に、科挙関連文献の訳注を作成し、科挙制度の運用面における実態と知識人がその中で如何に対処したかを把握するために必要な文献を広く利用しやすい形で提供することを目指す。また、八股文の学術的価値、試験官の好みや採点基準、あるいは出題傾向の変化など、これまであまり光が当てられなかった要素に着目し、科挙の実態の究明を行なう。

同時に、科挙を機軸に据えた文化史研究の歴史が浅いことに鑑み、国内及び海外の科挙学研究者と研究交流を進め、国際的な学術動向を踏まえた科挙研究の国際的ネットワーク協力関係を構築することを目指し、国内外の中国学の発展に寄与することを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

本研究では、科挙学に関する資料の収集に努め、科挙学研究者を擁する海外の大学との

学術交流を推進した。2006年には科挙学を専門とする劉海峰教授（厦門大学）と中国書院教育を専門とする鄧洪波教授（湖南大学）を招き、2007年には科挙に関する研究を専門とする周啓榮教授（イリノイ大学）・鶴成久章教授（福岡教育大学）・張希清教授（北京大学）らを招いて、講演会や討論会を行った。研究代表者および研究分担者は、2008年9月20・21日に学習院大学東洋文化研究所・台湾大学哲学系・韓国成均館大学哲学系が主催した「東アジアの陽明学」国際シンポジウムに招聘され、科挙の経学について資料収集し、研究発表を行うと共に韓国、台湾、国内の研究者と中国近世の科挙学について意見を交換し、2008年10月14・15日には中国天津市教育考試与評価研究所・北京大学歴史文化研究所・厦門大学考試研究センター・中国社会科学院歴史研究所が共同で主催した第四回「科挙制と科挙学」国際学術シンポジウムに招聘され、科挙学に関する研究発表を行い、最新の研究動向と今後の研究交流について協議した。また、2008年11月23・24日には中国北京市で北京大学中国古文献研究中心が主催した「中国經典文献詮釈芸術国際学術研討会」に招聘され、科挙学の経学に関する資料収集と研究発表を行い、中国、シンガポール、

台湾、米国の研究者と学術討論し、研究交流を深めた。さらに、2008年11月29日には二松学舎大学で開催された『論語』に関するシンポジウムに参加し、国内の研究者との交流を進めた。本研究の最終年度に当たる2009年度は、科挙学に造詣の深い研究者として、中国からは劉海峰教授や張希清教授ら15名、台湾からは鄭吉雄教授ら5名、日本国内からは鶴成久章教授や三浦秀一教授ら12名が、8月に北海道大学に参集し、科挙学の国際シンポジウムを開催する予定である。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

中国北京大学古文文献研究中心、中国科挙学会、台湾大学中文系との研究交流、研究協力が進展し、最終年度に研究成果をだせる見込みである。

### 4. 今後の研究の推進方策

研究交流、協議の結果、科挙学に造詣の深い研究者として、中国からは、中国科挙学会会長の劉海峰教授や北京大学歴史系の張希清教授ほか15名、台湾からは、台湾大学中文系の鄭吉雄教授ら5名、日本国内からは福岡教育大学の鶴成久章教授や東北大学の三浦秀一教授ほか12名が、本研究の最終年度に当たる2009年8月26・27・28日に北海道大学に参集し、科挙学の国際シンポジウムを開催する計画について合意を見た。すでに、招聘状を発送し、シンポジウムの開催準備に入り、研究成果がシンポジウムの予稿集、報告書に反映されるよう準備している。ただし、当初計画していた「万暦野獲編」の科挙関係部分の訳注計画については、研究責任者が長期海外研修に出張するため、中断せざるを得ない。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

①佐藤鍊太郎「禪と陽明学」、『王陽明的世

界』1、181-189頁、2008年、査読有

②水上雅晴「清代科挙的策問：以乾嘉期重視策問的現象為考察中心」、『第4回科挙制与科挙学国際研討会英辞集』、396-409頁、2008年、査読無

③周啓榮著・水上雅晴訳「印刷、科挙と經学—『四書』注から見た清代經学の轉換」、『中国哲学』36、31-54頁、2008年、査読有

④山際明利「北宋における官僚任用の一傾向—張載の場合—」、『中国哲学』35、167-188頁、2007年、査読有

⑤佐藤鍊太郎「宋明時代の心学と『易』」、『中国哲学』35、235-250頁、2007年、査読有

[学会発表] (計 8 件)

①弓巾和順「中国思想と『論語』解釈」二松学舎大学主催「第4回シンポジウム『論語』～現代に生きる『論語』～」、2008年11月29日、東京・二松学舎大学

②佐藤鍊太郎「对于「学而時習之」歴代詮釈変遷」、中国經典文献詮釈芸術国際學術研討会、2008年11月24日、中国北京大学博雅研究中心

③水上雅晴「清代科挙的策問：以乾嘉期重視策問的現象為考察中心」第四回科挙制と科挙学學術シンポジウム、2008年10月14日、中国天津市教育考試与評価研究所

④近藤浩之「中国古代における措辞形式による論証——告子の仁内義外説の場合」北海道中国哲学会第38回大会、2008年8月9日、於マリンヒルホテル小樽

[図書] (計 4 件)

②近藤浩之編、朋友書店、朱伯崑著、伊東倫厚監訳、『易学哲学史』全四巻、2009年、2068頁

①佐藤鍊太郎、日本武道館、『禪の思想と剣術』、2008年、385頁